

【地域にふれる活動】

5月21日に、あわら市トリムマラソンが開催されました。当日は天候もよく、多くの市民ランナーがあわら市内を駆け抜けていきました。ついこの前までのコロナ禍による活動制限がうそのようでした。

このあわら市の催しに、ランナーとして参加していた生徒たちもいたのですが、ボランティアとして参加していた生徒もたくさんいました。

右はそのことが取り上げられている新聞記事です。「中学校で募集」と記事の中にありますが、この募集に際しては、生徒の自主性を重んじた仕掛けがありました。というのは、もともとは市スポーツ課担当より学校に大会ボランティアの募集依頼がありました。これまででしたら、学級や部活動で教師から参加者を募ったり、チラシを配布したりするわけですが、今回はお昼の校内放送で、市の担当者から直接呼びかけていただくことにしました。

これまでのやり方も今回のやり方も、生徒の自主的な参加を期待していることには違いないのですが、ここで教員が間に入らずに、市の担当者が直接呼びかけるということに意味があるのです。

地元あわら市の催しに協力するということは、あわら市民として大切なことです。生徒たちは日頃から、あわら市民としてどうかかわっていくのかを考える「あわら考幸学」に取り組んでいます。あわら市のいろいろな施設の職員や市民と直接関わりながら学習を進めることにより、市民としての自覚と、将来あわら市に貢献する心を育みたいのです。

3月に行われた芦原温泉駅賑わい施設「アフレア」オープニングイベントで活躍した生徒たちも、イベント担当者と直接やり取りをしながら企画や運営を行っていました。本校は、学習する場を学校という空間から地域に広げて、実際の地域を感じ、地域に学び、地域に貢献するあわら市民を育てて参ります。

